

グループホーム [ちとせ]

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3474300286
法人名	医療法人 社団健信会 木下メディカルクリニック
事業所名	グループホーム ちとせ
所在地	広島県福山市沼隈町大字草深2034-1 (電話) 084-987-2411

評価機関名	NPO法人 あしすと
所在地	広島県福山市三吉町南一丁目11-31
訪問調査日	平成19年7月30日

【情報提供票より】(平成19年 7月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 1月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 2人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要( 7月 5日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 85.1歳	最低	80歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外科内科、木下メディカルクリニック、藤井眼科、三谷歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が近隣の方が多く、職員もなるべく近くの人を採用するようにしている。住み慣れた暮らしに近い環境の中で馴染みのある人と穏やかに共同生活が送れるよう配慮している。また、一人ひとりのペースや自由を大切にをモットーに管理者、職員で創りあげた理念「笑顔でのんびりふつうの暮らし」をお互いに共有し実践している。特に取り組んでいる事は全利用者がおむつを使用しないでプライバシーを守り支援している。常に人としての尊厳と権利を大切に、地域の一人として暮らしてもらえるように努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流促進については、町内会に加入され会合や地域行事に参加されている。また、こども神楽や中学生の体験学習の受け入れ、たよりの配布を行うなどの改善が図られている。ケア面についても、口腔ケアや注意の必要な物の保管・管理、服薬支援等、日常生活の中で取り組まれ改善が覗える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を管理者、職員で行うことにより、今までの取り組みの希薄な部分に気づく機会となり、改善に向け話し合い実践していくよう努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年10月に運営推進会議を開催する予定であり、現在準備段階である。今後、事業所と地域との連携、交流の機会が確保できる取り組みに期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>訪問時やたより等で常に要望や意見を問いかけると共に、何でも話してもらえる雰囲気づくりをしている。意見要望がある場合はミーティングで十分話し合い、反映につなげている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一人として町内会に加入し、地域の会合や行事に参加している。こども神楽や中学校の体験学習を受け入れると共に、利用者の安全を図るため、警察や消防、地域に「たより」を配布するなどの取り組みを展開している。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念のほか、グループホーム独自の理念を掲げ、地域の中でふつうの暮らしを目指す理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議の中で理念を共有し、自然体で持てる力を引き出すよう対処すると共に、その人らしくふつうに暮らせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し声かけやホーム便りを活用する事により、事業所の広報・啓発に努め、地域行事にも利用者と共に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員と共に行う事で改善点に気づく機会となると共に、外部評価についても真摯に受け止め改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加メンバーも決まり、10月の開催を予定している。運営推進会議の意義や役割など十分理解してもらうための働きかけていく取り組みをしている。		運営推進会議で事業所の報告と今後の取り組み事項について意見や要望を受け、地域と共に歩んでいける事業所となることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険担当部所に連携を働きかけると共に、保健士等とも連携を図り、課題やサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙やたよりで利用者の近況を報告すると共に、面会時に金銭管理の状況を伝えサインをもらうようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や手紙等で常に問いかけ、何でも話してもらえぬ雰囲気づくりをしている。意見や要望があった場合は、ミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は近隣の方が多いため、職員の採用についても出来るだけ地元の方を採用する事により、混乱を防ぐように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2～3回外部のグループホーム研修に順番に参加し、研修報告はミーティングの中で全職員に周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国ネットに加盟すると共に地区のケア会議に参加し、同業者や社会福祉協議会等と交流し、相互のサービスなどについて意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の視点に立った柔軟な支援をするよう、その人のペースを大切に自由生活してもらい、職員や他の利用者と一緒に馴染んでもらうよう配慮しながら支援をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の嗜好や得意な事項を家族から聴取し、また、日常生活の会話等の中から意向を汲み取り、支えあえる関係づくりをしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>価値感を押し付けないように、利用者一人ひとりに合った暮らしができるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時家族等から意見を聴取したり、日常生活の中から利用者の意向を担当職員が把握し、ミーティング時に介護計画に反映させ計画作りをしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは6ヶ月毎に行うと共に、状況に変化が生じた時は関係者による会議を開催し、状況に即した計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院の送迎などの支援は柔軟にしている。		必要な時、必要なサービスを臨機応変に提供していく取り組みが求められる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の医療機関の医師がかかりつけ医となっているが、本人、家族の同意と納得を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時から医師、家族、職員と重度化した場合のあり方について話し合っている。現状では困難な部分もあるが、全員で方針の統一に繋げて行く努力をしている。		今後も引き続き話し合いを持たれ、全員で共有していく事により、具体的な対応が出来る体制作りを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては全職員に周知している。利用者のプライバシーが損なわれないよう、さりげない言葉かけや対応の配慮がされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話の中から希望や要望を聞き取り、一人ひとりのペースに沿った柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で食事の準備や片付けをしたり、おやつ作りを行い、同じテーブルで同じ物を楽しく会話しながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりの意向を把握し希望に応じた対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等の中から役割を見つけ出し、その人の力が発揮できるように努めている。また、楽しみごとにも利用者と相談しながら、外出などの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーでの買い物や、散歩などを日課として採り入れたり、瀬戸内海を一望できる景観の良い場所にドライブをするなど、ホーム内だけで過ごさないよう工夫をし支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから全体が見渡せる構造になっており、見守りを中心とした対応をしている。外出しそうな時は声掛けをしたり、後を着いて行くなどし鍵はかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火、避難訓練などを近隣の方々と一緒に行い、地域の協力は得られるよう働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をし管理しているが、一人ひとりの水分摂取量も把握され、不足がちの人にはおやつ時や散歩、買物、入浴後それぞれ工夫をし確保されるよう対処している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く全てに活用できるようになっており、テーブル、ソファー、畳のスペースもあり、思い思いに過ごされている。不快な光や音もなく生活観や季節感のある飾りつけがさりげなくされており、家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品、写真、使い慣れた筆筒などの家具が持ち込まれ、居心地の良い居室作りがされている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ちとせ

評価年月日 19年 7月 30日 記入年月日 19年 7月 17日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 小山奈緒美



		目	次		
理念に基づく運営	.....	1	その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	.....	9
1 理念の共有	.....	1	1 その人らしい暮らしの支援	.....	9
2 地域との支えあい	.....	1	(1) 一人ひとりの尊重	.....	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	.....	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	.....	10
4 理念を実践するための体制	.....	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	.....	11
5 人材の育成と支援	.....	4	(4) 安心と安全を支える支援	.....	12
			(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	.....	13
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	.....	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	.....	14
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	.....	4	(1) 居心地のよい環境づくり	.....	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	.....	5	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	.....	15
その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	.....	6	サービスの成果に関する項目	.....	16
1 一人ひとりの把握	.....	6			
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	.....	7			
3 多機能性を活かした柔軟な支援	.....	7			
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	.....	7			

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「笑顔でのんびり ふつうの暮らし」を目標にサービスの向上に努めている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念の実現のため、日々のケアが画一的にならないよう日頃より話し合い取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ホームの便りを、利用者家族・地域の方・公共機関・病院に配布し理解していただけるように努めている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の方にホームの便りを配布したり、日常のあいさつを心がけ。最近では、利用者さんのことについて言葉かけがいただけるようになった。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		老人会への参加。地域の行事へ参加し交流している。(秋祭り・みこし・だんじり・とんど)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協会主催の福祉祭りには、ホームで作成した作品を出品し皆さんに見ていただきました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善する必要がある点については、スタッフ全員で話し合い我がホームに合ったような改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーにお願いはしているが、ホームからの一方的な情報提供をしているのみ。		秋の行事から積極的に取り組み、地域の方の意見を聞く機会を持つ予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の高齢者ケア会議に参加し、他の事業所の意見交換しながらサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、おおむね理解しているが現在までに支援の実績はない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を受け、事業所内の勉強会を実施した。特に虐待していることに自覚のない事や心理的虐待等について話し合い意識の向上に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時の、十分な説明と話し合いで理解していただいている。トラブルもない。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんの話に耳を傾け、苦情や不満を放置せずすみやかな対応をこころがけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態・暮らしぶりについては、毎月の通信として個々の家庭に報告している。金銭管理については、来訪時に個々に随時報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付についての説明を入居時に必ず行い。家族の訪問時には、意見・希望等がないか、こちらからも聞いたりしている。苦情についての対応もすみやかに対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回スタッフ全員が集まりミーティング、意見交換し必要に応じ運営者にも報告し対処している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中・夜間ともに利用者の方の状態・要望にあわせ対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動は最小限。雇用時も、出来るだけ地元の方でお願いしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修、その他の研修会の機会も多く与えられ積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の高齢者ケア会議に参加し交流、多方面の意見を聞く機会がありサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数回の懇親会があり、ストレス解消の場となっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	働きやすい環境作りのためハード・ソフト両面での協力を惜しまない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分な時間をとり、話を聴き受け止め対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに、家族等に今までの経過や苦労した話などを聴き、話の中から不安や要求をくみ取るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から出来るだけ多くの情報が得られるように対応し、生活に対する要望などを含めて見極めるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活の出来る場となるように、サービスの無理強いはいはしない様、様子を見ながら徐々に馴染んでいけるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から学ぶ場面作りに努めている。野菜作りの相談を持ちかけアドバイスを受けながらスタッフと楽しんだり、調理等の食事準備や掃除・洗濯も助けてもらっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が、家族のことを心配し大切に思っていることを伝え「まかせておけばいい」という考えを持たないように家族と共に支えていく関係が持てるよう努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の普段の様子をこまめに報告し、状況により面会の頻度や外出外泊の調整をお願いしたりし支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚、近隣の方などの面会や、こちらからの訪問の支援などを行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように職員が気を配り関わりを持てるような場面作りにつとめている。日常生活の場面で、助け合い・支えあう場面も見られる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者家族の訪問があったり、退居後も相談に応じている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活に対する意向を、まず本人と家族に聞いて個々の力に応じて、暮らしやすいよう検討しプランを立てている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を詳しく聴取し記録、把握に努めている。		センター方式の一部を活用し、改善を検討中。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別に24時間細かく記録、職員全員が把握するよう確実な申し送りにも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとにケアカンファレンスで話し合い利用者本位のプランを作成。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで現状に対応、随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は小まめに記入、記録と業務日誌をもとに申し送り で情報共有し、介護計画・実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟に対応し、個別の支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「ちとせだより」を配布し協力をお願いしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の退居時には、在宅のケアマネと連携し退居後も安心して暮らせるよう支援した。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は今のところない。担当ケアマネには「ちとせだより」を配布している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ、協力医療機関以外でも随時相談しながら支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来のある病院に受診したり、内服方法の指導を受けたりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日常のケアの連絡や、退院後の情報交換を密に行い早期退院に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、おおよその方針を話し合い状況に応じ対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限り家族の要望に添えるよう、家族やかかりつけ医と相談を重ね対処している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	担当かケアマネージャー・担当ケア関係者との面談等で情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけない接し方、対応を心がけるよういつも話し合っている。個人情報保護にも留意している。	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を促すような場面作りに努め、一人ひとりの力に合わせ支援している。	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にとって普通の暮らしが出来るよう、ケアが画一的にならないように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物に行き服を自分で選んでもらったり、希望に応じ近所の理美容院を利用している。利用困難な方はホームで支援している。	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じ、利用者とスタッフが一緒に食事準備から片付けを行い、食事は必ず一緒に席について食事が楽しめるようさりげないサポートを努めている。	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品・おやつ・飲み物の支援は個別に状況に合わせて行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを記録で把握、状態に合わせて下着等も使い分けている。居室にポータブルトイレを置くことなく、トイレへの誘導で対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は午後と決まっているが、一人ひとりの入浴で本人の希望に添うようくつろいで入浴できるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、安定した生活リズム作りに努めている。状況に応じて昼寝等の支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の出来ることを見極め、役割や楽しみを持っていただける場面作りに努めている。(畑仕事・食事準備・洗濯干し・掃除・新聞とり・新聞たたみ・洗濯たたみ・買い物・季節毎のレクレーションなど)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量や希望に応じ、自分でお金を持ち買い物をしたり楽しみをもって生活されています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーに買い物に出かけたり、近くを散歩したり、自宅に帰ってみたりとそれぞれの希望に添って支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフや家族とドライブしたり親戚の家に行ったり、知人のお見舞いに出かけたり、希望に応じ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は頻繁にあり、気軽に立ち寄っていただいています。お茶でもてなし、他の入居者の方とも会話がはずみ、次に来訪されたときも話して帰られます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体拘束についての勉強会を行い全員が理解し、言葉による拘束についても話し合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室とも鍵はかけないケアに取り組み、外出の察知には注意をはらっている。		無断外出・行方不明検索マニュアルの作成中。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の方を見守りやすい環境にあり、所在についてもいつも気を配り安全確保に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じ危険防止に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告をこまめに記入し一人ひとりの状態に応じ、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の勉強会を行い、起こりうる事故発生に備え常に話し合っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に沿い、避難訓練・消火訓練を行い 地域の駐在所・消防署・近隣の方に「ちとせだより」を配布時に協力をお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒・急変などの可能性を入居時に家族に説明し、ホームで普通の暮らしが出来るよう話し合い、事故発生時の対応についても話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェック及び個々起こりうる状態についての情報を職員全員が共有、早期の対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報および、特に注意の必要な薬・副作用等をNs.は職員全体に情報提供し症状の変化の確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の認知症老人の方に及ぼす影響を理解し、排便状態を把握し、飲食・飲水・運動の働きかけに取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを、個々の状態に応じ支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量をチェックし、個々の習慣や身体状態に応じ適切な補給に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、感染予防・消毒の取り決めがある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒・手洗い・手指の消毒など特に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇・菜園の整備。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に不快のないよう配慮し、季節の花を生けたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・玄関の広い空間のソファや、屋外のベンチなどで過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人・家族と相談しながら配慮、画一的ではない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気や、居室ごとに本人の体調に合わせて温度調節に配慮し ている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	出来るだけ安全に自立した生活が送れるよう、手すり・トイレ のバー・必要な人にはベットに起き上がりバーなどの工夫を している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々の力に合わせ、自分のペースで生活できる環境や場面 作りに努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	広い庭を利用し、屋外での歩行練習をかねた散歩や、野菜 作りなどで楽しまれています。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者のペースで出来るだけ利用者の方と一緒に過ごし、家事等も個々の力に合わせ一緒にしている。  
昼夜ともに利用者の方が出来るだけ不快のないよう、トイレへ誘導で排泄を促している。